

奈良県指定文化財調査票

調査日	2021 年	10 月	10 日	記入者	西田裕美
調査者名	春日	仲谷	西田	安川	

文化財名	奈良県の牛耕用具				
種類	<input type="checkbox"/> 史跡	<input type="checkbox"/> 名勝	<input type="checkbox"/> 天然記念物	<input checked="" type="checkbox"/> 有形民俗文化財	<input type="checkbox"/> その他 ()
指定年月日	2007年(平成19)3月30日				
所在地	大和郡山市矢田町545、奈良県立民俗博物館				
所有者 管理者	奈良県(奈良県立民俗博物館保管)				
員数	544点				
時代区分					
樹木の場合	(樹木名)			(樹齢)	
案内板の状況	なし				
公開	一部を展示公開				
保存状態	<input checked="" type="checkbox"/> 非常に良い	<input type="checkbox"/> 良い	<input type="checkbox"/> 普通	<input type="checkbox"/> 悪い	<input type="checkbox"/> 非常に悪い
	補足				
当面の課題	特になし。県指定の資料は主に地下にある収蔵庫に納められている。収蔵庫には鉄の扉の内側に網戸があり、靴からスリッパに履き替えるようになっていて虫などを入れない工夫がなされていた。内部にはぎっしりと物が入っており、常時扇風機で空気が循環させていた。一点一点にラベルが付けられて、類似したものをまとめて収納してあり、きちんと管理されていると感じた。				
今後の課題	特になし。				
その他 (由緒など)	『奈良県指定文化財 第48集』によると、これらの用具の使用されていた年代は江戸時代末期から昭和初期である。収蔵されている牛耕用具は大別すると、牛に牽引させる道具類、牛に装着する道具類、牛の世話をする道具類に分けられる。				
コメント	県立民俗博物館の収蔵庫に収められる資料はすでに飽和状態なので、寄贈の依頼があれば必ず行って記録はとっているとのことだった。新しくなった展示の説明も丁寧で、職員の方の思いが伝わって来た。同じような資料が数多くあることについても、「当たり前のこと、日常のことを残していくことに意味がある」とおっしゃっていた。一般には民俗資料について関心を持っている人が多いとは感じられないが、そのようなところにこそこのような熱意ある人材の配置が必要だと思った。				

奈良県指定文化財調査票(写真)

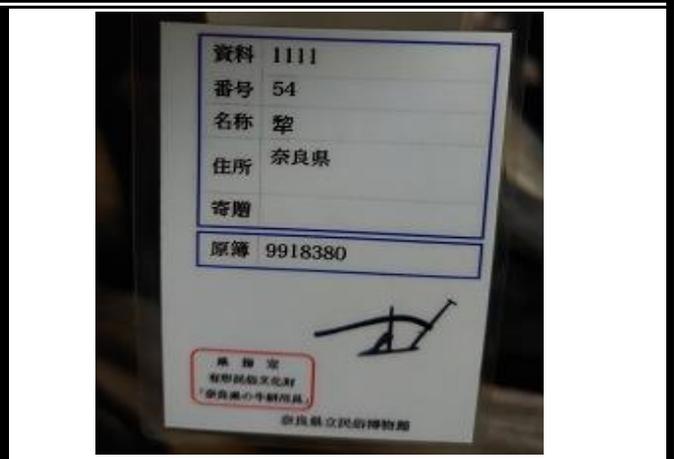
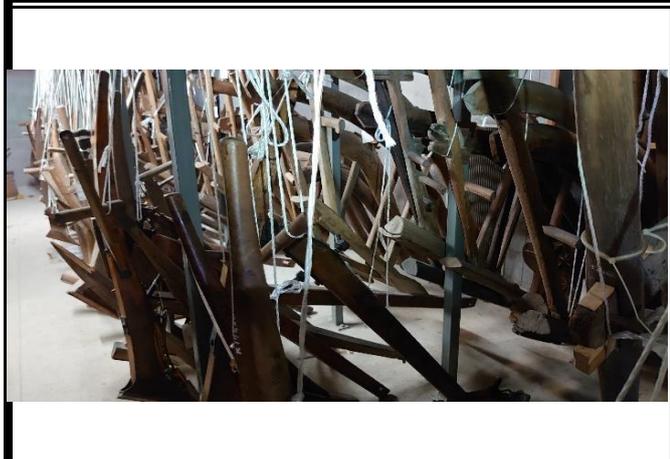
調査日	2021 年	10 月	10 日	記入者	西田裕美
調査者名	春日	仲谷	西田	安川	

文化財名	奈良県の牛耕用具
------	----------

展示品の犁(からすき)	展示品の馬鋤(まぐわ)
-------------	-------------



収蔵庫内の様子	収蔵庫内の収蔵品に付いている札
---------	-----------------



カルチベータと作条機(県教委冊子より)	耕鞍(県教委冊子より)
---------------------	-------------

